

市議 7 期目がスタート

議席は31番

改選後初めての臨時議会が、5月17、18日に開かれました。新人10人をふくむ32人の議員と、新しい末松市長が議場で顔を合わせました。

今期の私の議席は31番、森川ヤスエ議員は32番、いちばん傍聴席に近い3列目の左端で、議場全体がよく見渡せる場所になりました。



新しい議席で森川議員と

今年は生活産業常任委員会、防災安全特別委員会、国保運営協議会に所属します

臨時議会では各種役職の選挙が行なわれ、議長には青木啓文氏（あくていぶ21）、副議長には森しず子氏（公明党）、監査委員に市川哲夫氏（リベラル鈴鹿）が選出されました。

日本共産党市議団の役職は、次のとおりです。

石田秀三 生活産業常任委員会委員・防災安全特別委員会委員
国民健康保険運営協議会会長・議会運営委員会（委員外議員）

森川ヤスエ 文教福祉常任委員会委員・議会改革特別委員会委員
鈴鹿亀山地区広域連合議会議員

新市長・末松則子氏の施政方針は、6月2日からの定例議会で表明され、各議員の代表質問・一般質問は9日から行われる予定です。

過去最高3027票で7回目の当選

4月24日投票の市議選で、私は3027票、第5位というこれまでの最高の成績で、7期目の当選をさせていただきました。また、森川ヤスエ議員も激戦の神戸地域で得票を伸ばして、5期目の議席をかち取りました。

私たち共産党市議団は「選挙は議員の通信簿」とビラに書いて、4年間の議会活動の成果を市民の皆さんにお知らせし、その評価をいただくのが選挙であること、また「選挙の時だけがんばる」のではなく「4年間議会でしっかりがんばる」ことを訴えてきました。今回の結果は、市民の皆さんから「合格点」を付けていただいたものと思っています。

今期も市民の皆さんの声をしっかりと市政に届けてがんばります。また、次回には議席を増やすことを目標にして、活動の幅を広げて行きたいと考えています。引き続き、皆さんの大きなご支援をよろしくお願いします。

鈴鹿市での日本共産党の選挙ごとの得票比較

	2011年	2007年	増 減	2010年	2009年
石田 秀三	3,027	2,641	+386	参院比例	衆院比例
森川ヤスエ	2,451	2,315	+136		
合 計	5,478	4,956	+522	3,767	5,597
得 票 率	6.26%	5.70%	+0.56%	4.21%	5.24%

「会派」の構成も少し変わりました

議会は議員の集団である「会派」を中心に運営されます。会派は、政策や理念を同じくする集団というのが建前ですが、実際は「自民系」「民主系」を超えた会派になっている所もあります。

今期の鈴鹿市議会では、「アクティブ21」（7人）、「すずか倶楽部」（5人）、「公明党」（3人）、「緑風会」（3人）、「政友会」（3人）、「リベラル鈴鹿」（3人）、「共産党」（2人）、「市民クラブ」（2人）の8会派と、無所属4人となりました。前期に大会派だった「市政研究会」は、今回分裂して消えました。

鈴鹿市後援会春のバス旅行、鉄道博物館、「酢の里」などを訪ねました

5月22日、恒例の春のバス旅行で、名古屋の鉄道博物館、知多半田の「ミツカン・酢の里」などを回りました。選挙後の短期間の取り組みでしたが、80人の参加者で楽しい一日を過ごしました。

名古屋・金城埠頭に3月に出来たJR東海「リニア鉄道館」は、昔のSLやディーゼル車、歴代の新幹線車両などがズラリと並んでいて、壮観でした。また、ミニチュアの街並みの中をいくつもの電車が走り抜ける「ジオラマ」も見ごたえがありました。



半田の街中にある「ミツカン」工場は、創業200年の老舗です。酒粕から酢を作る技術を開発し、それが江戸の「にぎり寿司」が広まる元になったということです。今でも、自然の発酵によって酢を作っている所を見て回りました。木造黒塗りの工場と運河の風景も良かったです。

初代新幹線「ゼロ系」の前で

秋にもいい所への日帰りバス旅行を企画します。乞うご期待。

宮城県・仙南へ震災救援ボランティアに行ってきます

大変な地震と津波で被害を受けた東北地方に、多くの支援の手が差し伸べられています。日本共産党も、全国から担当地域を決めてボランティアを派遣、長期の支援をすることになり、三重県は仙南地区（岩沼市・仙台空港の周辺）に入ります。すでに現地には東海ブロックの宿泊所が設置され、そこを拠点に必要な仕事を始めています。

私と森川さんは、6月3日～7日の予定で仙南に出かけます。遠い所なので実質3日間の活動ですが、がんばろうと思います。現地では「物資お届け隊」「ドロ出し隊」「かたづけ隊」などの仕事があるそうです。

皆さんにお願いです。これから夏休みなどにボランティアに応募して下さい。現地への支援物資に代えて、資金カンパをお願いします。

ずいそう



不破さんの「時代の証言」

選挙が終わってやれやれ、久しぶりにゆっくりと本を読もうと買った何冊かのひとつが、「不破哲三 時代の証言」である。これは昨年11月～12月に読売新聞で長期連載されたインタビューをもとにした、戦後日本の政治史の証言である。政治上の重大事件の裏表や、不破さん自身の体験したことが面白く書かれていて、引き込まれて半日で読んでしまった。

不破さんといえば、70年代に共産党を知った私の年代にとっては「憧れの存在」で、当時の何かの寄せ書きに自分の名を「不破秀三」と書いたのが残っているほどである。不破さんは当時も今も、国会の論戦でも、国際問題の論文でも、切れ味のいい論理展開、豊富な知識と徹底した調査に裏付けられた説得力は、日本でもピカイチだ。

そんな不破さんでも、69年衆議院選の初出馬のときは、演説が苦手で苦労した。当時の写真を見ると、聞いているのは子どもだけとか、駅前で足を止める人がいないとか、さんざんだったというから、おかしい。

「また、山においでよ」と呼びかける映画「岳」

久しぶりに見た映画、「岳」もよかった。北アルプスで山岳救助ボランティアとして活躍する山男・島崎三步が、遭難者救助に超人的な力を発揮する痛快なドラマである。

雄大な山の風景と、その中でいきいきと走り回る三步。彼は遭難者を助けた時に、「山を甘く見るな」などと言わない。ニコニコと「また、山においでよ」と誘いかける。「悲しいことが起きるのが、山の半分。楽しいことがあるのも、山の半分。二つ合わさって山なんだ。」「歩いて、登って、汗かいて、笑って、にぎり飯を食う。それと、空気がうまい！」自分の大好きな山のすばらしさ、楽しさをみんなに知ってほしい、味わってほしい。その思いが、見ている者にダイレクトに伝わってくる。

前を見た「剣岳・点の記」は、同じアルプスをバックにしているが、明治の地図作成のための測量という、使命感を持って登る山だった。「岳」は、大自然のすばらしさを楽しむために登る、現代の山である。どちらも、自然と人間が正面からぶつかり合うことには変わらないが。